

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成30年度予算(当初)	
水産試験場運営費	33,212	千円
試験研究調査費	22,587	千円
(養殖場防疫・疾病対策事業)	(6,660)	
(琵琶湖生態系修復総合対策研究)	(2,160)	
(アユ資源・漁獲情報発信高度化研究)	(5,021)	
(魚類等増殖環境評価調査研究)	(1,006)	
(セタシジミ種苗生産放流高度化技術開発研究)	(1,150)	
(外来魚駆除対策研究)	(3,751)	
(増養殖技術研究)	(304)	
(漁況予報調査研究)	(1,824)	
(漁場環境調査研究)	(711)	
養鱒事業費	22,500	千円
調査指導費	1,222	千円
(特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究)	(1,222)	
職員費	222,192	千円
計	301,713	千円

水産課計上分

事業名	平成30年度予算(当初)	
水産基盤整備事業費	5,102	千円
(ヨシ帯造成・砂地造成事務費)	(2,012)	
(セタシジミ種苗放流事業)	(3,000)	
資源管理体制高度化推進事業費	1,870	千円
(資源管理型漁業推進調査業務)	(1,870)	
ホンモロコ資源回復対策事業	840	千円
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費	1,600	千円
(効果調査)	(1,600)	
多様で豊かな湖づくり推進事業費	1,800	千円
(再生産回復調査研究)	(1,800)	
計	11,212	千円

平成30年度主要事業一覧

事業名	事業概要
琵琶湖生態系修復総合対策研究	生物多様性に配慮しつつ、生態系の総合的修復技術を開発する。 ○水産資源動向モニタリング 沖合底魚資源の評価 沖合浮魚資源の評価、 スジエビ資源の漁況予測技術開発研究 ○沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ホンモロコ繁殖要因の解明研究 淡水真珠生産技術向上開発研究 ○水産資源造成技術開発研究
魚類等増殖環境評価調査研究	過去に実施された漁場環境改善に係る事業効果調査と内湖や湖辺残存水面の魚類増殖場としての評価を行い、課題や改善点を整理する。 ○南湖底泥の富栄養化等調査研究

	○魚類増殖場としての湖辺残存水面等評価調査
外来魚駆除対策研究	外来魚駆除量を増大させるための蝸集場所探索とその活用技術の開発。 チャネルキャットフィッシュの現状把握・駆除技術の開発。 ○外来魚の駆除量増大技術開発研究 ○新たな外来魚の拡散防止および効率的駆除技術開発研究
ホンモロコ資源回復対策事業*	著しく減少したホンモロコ資源を回復させるためのふ化仔魚水田放流種苗用の天然親魚を生産し、種苗放流の効果を調査する。
多様で豊かな湖づくり推進事業(再生産回復調査研究)*	産卵回帰したニゴロブナの産卵生態の把握と再生産助長技術の開発を行う。
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業(効果調査)*	赤野井湾を含む南湖水域で行われる水草除去や外来魚駆除、種苗放流による水産資源の回復、漁場の再生事業の効果を把握する。 ○南湖におけるホンモロコ回復状況の確認 ○赤野井湾での漁獲と再生産状況把握による有効性評価 ○赤野井湾での真珠母貝生産効果調査
養殖場防疫・疾病対策事業	アユの養殖や河川放流で問題となっている疾病対策研究およびこれらの感染症の保菌検査を行う。 ○冷水病抗病性付与および除菌技術対策研究 ○冷水病ワクチンの開発研究 ○アユのエドワジエラ・イクタルリ感染症蔓延防止対策
アユ資源・漁獲情報発信高度化研究	アユの初期資源状況が漁獲に及ぼす影響解明と科学計量魚探による資源尾数推定等、各種指標に基づく資源・漁獲動向予測。 ○漁獲による資源消費過程の解明と減耗要因の分析 ○科学計量魚探を用いた資源・漁獲動向予測と沿岸水域の生息状況把握手法の開発、ふ化日組成把握の精度向上 ○不漁原因解明研究
セタシジミ種苗生産放流高度化技術開発研究	セタシジミの肥満度低下から困難になっている増殖対策を着実に実施するための技術開発を行う。 ○親貝養成技術の確立 ○種苗生産効率の向上 ○多様な放流技術の開発
漁況予報調査研究	琵琶湖のアユの資源状況の把握とその情報提供
漁場環境調査	琵琶湖の漁場環境を把握するための定点定期調査
特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究	在来マス類(イワナ・アマゴ)資源の増殖・種苗化および地域特産種としての高成長系ピワマスの養殖業への普及を行うための研究

*：本課予算